



こもり ようたろう

(故) 小森 陽太郎 氏

生年月日 大正 15 年 11 月 9 日生

住 所 田辺市上万呂

大正 15 年 (1926 年) 11 月 9 日、西牟婁郡富里村 (現田辺市下川下) に生まれる。

昭和 22 年 (1947 年) に和歌山師範学校を卒業後、教諭として二川中学校を振り出しに、東陽中学校、西牟婁地方教育事務所等に勤務の後、38 歳の若さで椿小学校長に着任。以後、田辺第一小学校長、西牟婁地方教育事務所長、東陽中学校長などを歴任、39 年の長きにわたり教育に対する強い信念と豊かな見識、卓越した指導力をもって当地域の児童・生徒の育成と教育行政の充実・発展に尽力。

特に国語教育の充実を唱え、教職員の資質の向上や授業研究に力を傾ける一方で、当地方教育界に働きかけ「西牟婁地方国語科研究会」を設立、その中心的存在として活躍。その成果の一つである研究誌「国研」の刊行のほか、同研究会会長当時に創刊した児童・生徒の作文集「やまなみ」の刊行は、その後も後進に引き継がれ、地域児童・生徒の国語力、作文力の向上、国語教育の充実・発展に大きな足跡を残した。

一方、昭和 47 年 (1972 年) から 30 年間にわたり和歌山県同和委員会委員を務め、とりわけ指導部副部長として各地での講演活動や執筆活動に精力的に取り組むとともに、和歌山県における同和问题早期解決に向け、その先頭に立って「県民みんなの同和運動」の定着と発展、人権意識の高揚のために尽力。こうした長年の功績により、昭和 62 年 (1987 年) には和歌山県知事表彰を受賞。さらに平成 12 年 (2000 年) 3 月に和歌山県同和委員会が発刊した冊子「人権文化の創造-同和问题解決への結集-」の編さんの中心的役割を果たすなど、同和问题の正しい理解と認識のための普及・啓発活動や人権意識の高揚に尽くした。

また、教職を退いた後、請われて紀伊民報社の特別論説委員としてコラム「水鉄砲」の執筆に参加、昭和 62 年 (1987 年) から 15 年余にわたり同欄の主筆として、社会問題や教育問題など幅広いテーマについて読者に語りかけ、コラム「水鉄砲」を通して、政治・文化・生活など様々な問題に対する人々の意識の高揚に

## 第 35 回 (平成 16 年)

大きな影響を与えた。

このように多年にわたり当地域における教育の向上や人権意識の高揚、文化の振興等々、幅広い分野で活躍し、本市発展に果たした氏の功績は誠に多大である。

### (略 歴)

昭和 22 年 (1947 年) 3 月 和歌山師範学校卒業

昭和 22 年 (1947 年) 4 月 西牟婁郡二川村立二川中学校教諭

昭和 23 年 (1948 年) 4 月 西牟婁郡栗栖川村立栗栖川中学校教諭

昭和 28 年 (1953 年) 4 月 田辺市立東陽中学校教諭

昭和 32 年 (1957 年) 4 月 西牟婁地方指導室 (現西牟婁地方教育事務所) 主事

昭和 39 年 (1964 年) 4 月 西牟婁郡白浜町立椿小学校長

昭和 44 年 (1969 年) 4 月 田辺市立上秋津小学校長

昭和 49 年 (1974 年) 4 月 田辺市立田辺第一小学校長

昭和 55 年 (1980 年) 4 月 西牟婁地方教育事務所長

昭和 58 年 (1983 年) 4 月 田辺市立東陽中学校長

昭和 47 年 (1972 年) 8 月～平成 14 年 (2002 年) 3 月 和歌山県同和委員会委員

### (受賞歴)

昭和 62 年 (1987 年) 5 月 和歌山県知事表彰 (社会福祉功労)